

《令和7年度 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
梵語仏典研究会	田中 純也
研究会名 略称:	所 属:大正大学総合仏教研究所
活動紹介	
【活動内容】 本研究会は大正大学の伝統的な梵語仏典研究を受け継ぐ研究会であり、『声聞地』『律経』およびサンスクリット修辞法の研究を中心に活動している。「声聞地グループ」は、『声聞地』のサンスクリット写本を底本としてチベット語訳諸版、漢訳を比較資料に用いて既刊校訂本を校正し、より正確な校訂テキストと和訳の作成をおこなっている。「律経グループ」は、『律経自註』のウメ字写本や諸校訂本を比較資料に用いて校訂テキストと和訳の作成をおこなっている。「修辞法グループ」は、修辞法に関係する古インド・アーリヤ語の文献を輪読している。なお、本研究会では各グループが協力して内容の検討および相互批判をおこなうが、各自の研究テーマに沿ってグループを選択して参加することも歓迎する。	
【活動実績】 ※出版/論文/受賞・研究助成の経歴など 『大正大学総合仏教研究所研究叢書第4巻 瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処』『同第18巻 第二瑜伽処』『同第32巻 第三瑜伽処』(山喜房佛書林1998, 2007, 2018)、米澤嘉康(代表)「7世紀の律文献にみられる仏教者と仏教教団の研究」科研費基盤(C)2014年度～2016年度、Ḍaṇḍin著『詩の鏡』、Vāmana著『詩の修辞法の手引』および『同註』のRomanized Textならびに訳註(『綜佛年報30-41』)ほか。	
【令和7年度活動計画】 「声聞地グループ」は引き続き『瑜伽論声聞地』『第四瑜伽処』の校訂作業を進め、出版を目指す。なお、研究会は基本的にオンラインで開催する。「律経グループ」は国内外の律研究者と協力し『律経』および『律経自註』『出家事』部分の校訂テキストと和訳の出版・公開を目指す。また、律に関するワークショップなども試みようと考えている。「修辞法グループ」においては、各研究員の専門・興味に応じて、梵語文献を中心とした古インド・アーリヤ語文献を主たる対象として、そこで用いられている修辞法について研究ならびに発表を進めてゆく予定である。	